

事前評価書

| | | 年度 | R3 |
|-------------|------------|--|----|
| | | 整理番号 | |
| 事業名・路線名等 | | 道路改良事業 一般県道中判田 <small>なかはんたいぬかいせん</small> 犬飼線 <small>とりす</small> (鳥巣区) | |
| 所在地 | | 大分市大字 <small>はたのぼり</small> 端登 | |
| 事業概要 | 事業の目的 | ・道路幅員の確保による道路機能の向上 | |
| | 事業内容 | 【計画延長・幅員】L=590m(現拡)、W=5.5(7.0)m 【道路区分】第3種第4級 【設計速度】V=30km/h 【計画交通量】485台/日 【現況幅員】現況幅員:3.2m 【交通量】476台/日(平成27年度センサス) | |
| | 事業費 | C=410百万円 | |
| 事業の実施計画 | 完成予定年 | 着手から6年(令和8年度) | |
| | 事業段階毎の実施計画 | 1年目 測量、設計 2年目 用地測量 3年目 用地買収 4年目 道路工事 5年目 道路工事 6年目 道路工事 | |
| 事業の必要性 | 必要性・緊急性 | ・幅員狭小により通行車両の走行性が低く(車道幅員3.2m)、車両同士のすれ違いが困難 ・当地区と大分市中心部を結ぶ地域住民の生活道路。 | |
| | 整備効果 | ・幅員狭小及び離合困難箇所の解消による通行車両の走行性、安全性の向上 ・地域住民の生活道路の利便性向上 ・災害時、緊急時における国道10号の代替ルートの強化 | |
| 事業手法・工法の妥当性 | 費用対効果分析 | 幅員狭小区間の解消(一次改築)であり、防災面・交通安全の観点からも評価(参考B/C≒0.2) | |
| | 工法の妥当性 | ・道路構造令等に適合した工法を採用 ・複数案の比較検討を行い、最も経済的な現道拡幅案を採用 | |
| | コスト縮減 | ・現道を極力有効活用することでコスト縮減を図る。 ・アスファルトコンクリート、砕石は再生材を利用 | |
| | 環境等への配慮 | ・現道拡幅であり、地形の改変による影響は小さい。 ・発生土は現場内流用、残土については他の公共事業へ流用する。 ・低騒音・低振動対応の建設機械の使用により、生活環境に配慮する。 | |
| 事業実施環境 | 事業の実効性 | ・大分市から大分県議会土木建築委員会あて要望あり。 | |
| | 事業の成立性 | ・道路法第15条に基づき、安全かつ円滑な交通を確保できる構造とすべく事業を実施 ・「安心・活力・発展プラン2015(2020改訂版)」、「おおいた土木未来プラン2015(改訂)」、「大分県長期道路整備計画『おおいたの道構想2015』」に基づき事業実施 | |
| | 事業の特殊性 | ・大野川とJR豊肥線に挟まれた道路であり、地形の改変を最小限にする必要がある。このため、工事影響の少ない現道拡幅案を採用している。 | |
| 対応方針 | | ・以上のとおり事業の必要性が認められることから、本事業を実施したい。 | |

事業箇所位置図

